

様式第2号（第9条関係）

会 議 録

会議の名称		令和4年度第5回ふじみ野市行政評価外部評価委員会			
開催日時		令和4年12月23日（金） 開会時刻 午前 9時30分 閉会時刻 午前11時45分			
開催場所		ふじみ野市役所 本庁舎3階 A301会議室			
出席した者の氏名		役職名	氏名	役職名	氏名
		委員長	木村 浩則	こども・元気健康部長	皆川 恒晴
		副委員長	原田 晴男	保育課長	小川 正樹
		委員	川村 和也	保健センター所長	星野 光
		〃	嶋 健司	保健センター主幹	三原 加奈
		〃	島村 かほる	教育部長	山中 昇
		〃	滝嶋 康弘	教育総務課長	工藤 淳
		〃	瀧口 詠子	学校教育課長	石川 聖徳
		〃	濱田 明彦	学校給食課長	桑子 恵美
会議の議題		(1)【施策12】保育ー子育ても仕事もガンバル保護者を応援しますー (2)【施策15】健康づくりー生涯を通じた健康づくりを支援しますー (3)【施策37】小中学校ー確かな学力と自立する力を育成しますー			
会議の公開又は非公開の別		公開			
会議の非公開の理由		ー			
傍聴人の数		0人			
発言の内容		別紙のとおり			
会議資料	○次第 ○外部評価シート ○委員質問に対する回答票 ○令和4年度会議スケジュール				
事務局		総合政策部 経営戦略室			
議事の確定	確定年月日	令和5年 1月31日			
	記名押印	役職名 委員長 木村 浩則 ㊟			

別紙

会議内容

1 開会

2 【施策12】保育ー子育ても仕事もガンバル保護者を応援しますー（こども・元気健康部）

<主な質問等>

○待機児童1名が残っており、その児童の保護者の希望する保育所が1施設であったことによるものとあるが、地理的な問題等あったのか。

⇒予めこの保育所だけ、と決めて申請してくる方がいる。地理的な問題や保育の中身などについて考え方があってのことと思う。

○それでは1名残るということは仕方ないものか。

⇒どうしても保育園に入所させたい親は複数の希望を書く。1か所しか書かない方は入れなかったらそれで仕方ないという方かと思われる。

○病児・病後児保育の施設数が増えたとあったが、これは新たに民間保育所ができてそこで病児保育等ができるというものか。

⇒その保育所に併設の建物でできるような形になっている。

○霞ヶ丘保育所空調設備改修工事基本設計業務が施策12にあることに違和感を覚えるがこれについて説明を。

⇒市役所では予算を目的別・性質別に分類しているが、まずは目的別に分類する。そのため、工事に関する費用であっても、保育所に係るものであれば民生費に分類される。そして、民生費の中で保育所の運営予算などとひとまとまりの事業として工事費も取り扱うことになる。

○基本設計だけでなく実施設計や施工費用も同じ扱いか。

⇒そのとおり。なお、今回取組のところに、「霞ヶ丘保育所空調設備基本設計業務」と記載してしまったが、取組名としては「保育所環境の整備」などとしたほうがよかったと考えている。

○保育課が課題として考えていることについて、事前質問に対する回答以外で補足等あれば聞きたい。

⇒新しい保育園と昔からある保育園があるため、保育の質の向上・保育所間の質の均質化が大きな課題であると考えている。各保育所の特性を生かしながら課題を解決していけるよう、保育所と市で連携していきたいと思う。

○流山市が送迎保育システムを導入している。ふじみ野市と同様に流山市もコンパクトな自治体であるが、ふじみ野市で導入しない理由は。

⇒送迎保育システムについては、以前導入に向けて検討したことがある。保護者にとっては利便性が高く良いシステムであるが、子どもにとってはそうでない面もある。送迎とすることで、保育士から保護者に対して直接子どもの一日の様子を伝えることが難しくなってしまう。保育・子育てへの影響を考えると、この問題を解決できない状態ではシステムの導入は難しいという結論になった。また、送迎保育のシステムは、駅周辺等利便性の高い地域に

ある保育所では定員がいっぱいであるものの、そうでない地域においては定員を満たしていないような、地域格差がある状態を解消するためのものという側面が強いが、本市においては駅周辺等以外の地域の保育所も定員がいっぱいな状況である。

⇒補足として、流山市と本市の保育所の数を比較すると公立の数は同数で、民間の数は流山市のほうが3か所ほど多い。面積で比較すると流山市は本市の2.5倍程度の広さがある。また、過去のアンケートでは送迎保育システムに対する要望はなかった。今後アンケート等で要望があった場合は検討を行っていく。

○指標1 保育所入所希望者数について目標値と実績値との差異や、数値の意味についてどのように理解すればよいのか。実績値から目標値を算出しそうなものだが、そうになっていないような気がする。

⇒目標値の設定根拠であった調査が廃止されたこと、また、指標として意味を捉えづらいことより、今後見直しを行う。

○最近の保育所で起きた不適切保育等の事件を受けて、職員の研修など行っているか。

⇒民間含めて市内の保育所にガイドラインの再周知を行った。公立保育所の園長で集まって会議も行った。本市においてはきちんと保育を行っているが、市民の方から誤解されないように対応していく必要がある。また、人員配置については、国の配置基準があるが、実状は公立、民間ともにその基準よりゆとりのある人員配置を行っている。

3 【施策15】健康づくりー生涯を通じた健康づくりを支援しますー（こども・元気健康部）

<主な質問等>

○ゲートキーパーの活動でこういうことが行われた、というような実績は把握しているか。実際のところを聞きたい。

⇒ゲートキーパーに活動報告をお願いしていないため、実際のところは把握していないが、ゲートキーパー研修を受けた職員によって、福祉系の相談窓口から保健センターの専門窓口につながった事例がある。

○実際の事例を共有できると良いと思うことから、フィードバックの仕組みを作れると良い。

⇒承知した。

○元気・健康メニュー協力店の仕組みについて、実際の飲食店の声はどうか。

⇒令和3年度時点では9店舗として記載させていただいているが、現時点では7店舗に減少してしまっている。協力店を辞退した2店舗からは、人が集まらず効果を実感できないということで辞退の申し出があった。なお、元気・健康メニューには5つの認定基準がある。①彩りバランスメニュー②野菜充実メニュー③適塩メニュー④塩分控えめオーダー対応⑤地場産の野菜や米な

どを使用しているメニューの5つがあり、現在の7店舗においてはほとんど②の基準で認定している。この元気・健康メニューは元気・健康マイレージ事業で実施しており、その案内冊子やHPで市民の方々に協力店を周知している。元気・健康マイレージ事業の参加者は現在5,000人弱程度。現在第2期元気・健康プランを策定中であるので、より飲食店が参加しやすい形で事業の見直しを行いたい。

○新たに認定を得ようとする、なんらかの努力が必要かと思うが、認定辞退はなぜ起こったものなのか。認定継続のためのハードルがあるのか。

⇒進捗状況の確認等はそれほどないので、飲食店側の負担はほぼないと考えている。実際に飲食店の声を聞いてみたいと思う。

○健康生活セミナーに関して、オンラインによる参加枠を新設とあるが、このことによって参加者の広がりがあったのか。

⇒この事業に限らず、保健センターの事業はコロナの影響を受けており、事業の実施内容を変更してきた。このセミナーについてもオンラインとのハイブリッド形式で実施した。オンラインによる参加者が少数だがおり、比較的若い50代の方の参加があった。

○外食は塩分が多めになったりしがちなので、元気・健康メニューの取組は良いと思う。このメニューを頼めるのは、元気・健康マイレージ事業の参加者のみなのか。

⇒頼むことは誰でもできる。ただし、そのメニューを頼むことでポイントを貯めることができるのは、元気・健康マイレージ事業の参加者のみとなっている。(ポイントを貯めることで商品券等と交換できる。)

4 【施策37】小中学校—確かな学力と自立する力を育成します—(教育部)

<主な質問等>

○施策評価シートの指標2・3について、年度によって実績値のばらつきがあるが、この指標は取組の成果を測る上で適切なものといえるのか。この実績値をどのように取組に反映させていくのか。

⇒この指標については、対象となる児童生徒が年度毎に異なってしまうため、児童生徒個人に着目したときに、その子がどの程度学力が伸びたかが把握できないものであった。そのため、後期基本計画においては、個々の児童生徒の学力の伸びを把握できるようなものを指標にすることを検討している。なお埼玉県学力学習状況調査については、その結果を分析の上で現場にフィードバックするようにしている。

○他市との比較や時系列での分析等も行いながら、施策の効果を測定していけると良いと思う。

⇒指標としては設定していないが、個々の児童生徒の学力の伸びを把握することができる調査もある。また、学校でのテスト等で、教科単位で伸びを追えるものもある。施策の効果を測定する上で、どの指標がもっとも適切か委員からのご指摘も踏まえ、後期基本計画策定に当たってよく検討したいと思う。

○「学校に行くのが楽しい」と答えた児童生徒の割合が、令和3年度は80%程度おり、素晴らしいことだと思う。ただ、市として施策の成果を測るための指標が学校に行くのが楽しいと答えた割合だとすると、楽しい理由・楽しくない理由が見えてこないのではないか。そういった様々な要因についてのデータは持っているのか。

⇒この項目は、埼玉県学力学習状況調査の中の質問紙調査の項目の1つである。楽しい理由・楽しくない理由については別途アンケートも実施しながら把握に努めているところである。児童生徒にとって学校は楽しい場所であることが大切であるという思いから、この指標を設定しているところである。

○全国平均だと学校に行くのが楽しいと答えた児童生徒の割合はどの程度なのか。

⇒全国平均も同程度である。前期基本計画は目標値が高すぎたので、後期基本計画では見直していきたい。

○学力学習状況調査において、ふじみ野市は全国ではどの程度のレベルに位置するか。

⇒調査が県の調査であり全国での比較ができないため、埼玉県での状況をお話させていただくと、埼玉県ではさいたま市を除く62市町村中小生が20番程度、中学生ではより上位にある。

○指標5を見ると、目標値より大きく下回っているが、実際の埼玉県学力学習状況調査の結果を他自治体と比較すると、ふじみ野市は平均より高い状況である。指標の目標値が高すぎたのではないか。

⇒目標値が高すぎたものと考えている。

○指標5の前期基本計画の目標値はどのように設定したのか。

⇒前期基本計画策定時は、埼玉県学力学習状況調査が始まったばかりで、どのようなものか理解が進んでいない部分があった。そのため、通常の学校におけるテストを参考に目標値を設定してしまっていた。

○タブレットの活用について、活用内容とその結果について聞きたい。また、学校給食費の未納者世帯を訪問した結果、納付につながった世帯数について伺いたい。

⇒タブレットについては、令和3年度は導入してすぐであったこともあり、教員側のノウハウが不足していた部分があった。そのため、今年度よりGIGAスクール推進主幹を配置して、その者が各校を巡回し、タブレットの活用方法等について研修等を行っている。結果として、令和4年度においてはタブレットの利用時間が右肩上がり伸びている状況である。ICT技術を活用した個別最適な学びが可能となるよう積極的に取り組んでいる。また、学校給食費については、訪問した全ての未納者世帯で納付につながっている。納付いただくためには、滞納し始めに速やかに対処することが重要と考えている。長期・高額になると納付に繋がらないケースが多いため、極力現年度中に対応を行っている。

○タブレットについては、使用することが目的ではなく、使用して個々の児童

生徒に最適な学びを提供することが目的であると思うので、手段が目的にならないようにして欲しい。

○小中学校の先生の長時間労働について伺ったところである。この時間外在校等時間について、どのように評価しているか。

⇒教員は、通常の始業から終業までの時間以外に、始業前の準備や部活動の対応等業務が多岐に渡る。まだまだ時間外労働が多いと考えているが、現在国や県をあげて教員の働き方改革を行っているところであるため、市としても取組を進めていく。ただし、あくまでも児童生徒中心で取組を進めていくことが重要と考えている。

○資質や指導力に課題のある教員がいる場合の対応について、どのように行っているか。そのような教員がいる場合、児童生徒の心身に悪い影響があるものと思うが。

⇒埼玉県における「指導力不足教員」の基準にあたるような教員は市内の学校にはいない。校長・教頭や、保護者又は児童生徒等の意見から問題が見受けられる教員と思われる者がいる場合は、教育委員会で訪問を行い、確認を行った上で対応している。

○施策評価シートの取組⑤「学校施設等の整備」について、そもそも大規模改修工事などは、基本構想・前期基本計画策定以前から発生している経費と考えるが。

⇒市で行っている事業はどれも基本構想・前期基本計画に紐づいて行っている。施策評価シートの中で取組として挙げているため、新しい目的があり始めた事業であるというように感じてしまうものと思う。しかし、ご指摘のとおりこれは以前より行っている取組である。最初に述べたとおり、このような改修工事を含めて市で行う事業はどれも基本構想・前期基本計画に紐づいて行っているものであり、今回はその内容から、施策の目標を達成するための取組としてシートに記載することが適切であると判断したため記載しているものである。

○年に何回か学校の授業を拝見しているが、昔とは大きく異なっていると感じた。児童生徒が外国の方とコミュニケーションがとれる場がきちんと用意されていることは素晴らしいと感じる。小中学校の段階でこのような経験ができれば得るものは大きいと思う。また、ALTについて、現在市内19校中18名の配置となっているが、各校1名の配置とはならないのか。

⇒生徒数が少なく単学級の学校については、かけもちで対応してもらっているため、現在のところ各校1名の配置とする予定はない。

○学び育ちサポーターは、元教員の方などが多いのか。また、サポーターになるにあたって研修等はあるのか。

⇒特にそういうわけではない。子育てが終わった方や、これから教員を目指す方など色々な方がサポーターになっている。サポーターになる方に対しては、児童生徒との接し方などの研修を実施しているとともに、サポーターの方々が情報交換するような場も設定している。また、より良い取組となるようサ

ポーターの方と学校の教員との連携も行っている。

5 その他

6 閉会